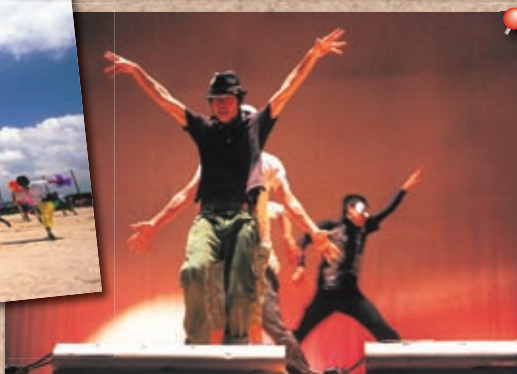


### 昨年の学園祭



# 姉水

発行所

滋賀県長浜市宮部町 2410  
滋賀県立虎姫高等学校内

姉水会

〒529-0112  
TEL 虎姫 0749-73-3055 (代)

印刷 株式会社サラト

次の時代をになう

人材育成に取り組む我が母校

役立つ電子黒板

姉水会会長 木下善正



これらの研究を進めるにあたっては学校長はじめ先生方のご苦労は大変であろうと推察されますが、湖国をひいては日本を担う人材の育成のためにおおいに役立つものであると思います。立派な成果を上げていただくよう姉水会としても全力で応援していきたいと考えています。会員の皆様の尚一層のご支援、ご指導、ご協力をお願いし、合わせて、益々のご活躍をお祈りする次第です。

### 平成二十四年度

### 「姉水会」総会のご案内

●期日 平成二十四年八月四日(土)  
●日程 午後二:〇〇〜三:三〇 理事会  
一:三〇〜二:三〇 総会  
三:〇〇〜四:〇〇 講演会  
四:三〇〜 懇親会

●場所 母校大会議室(第三棟二階)  
●講演会  
演題 「バイオビジネスと  
バイオ教育の最前線」

●懇親会  
講師 長浜・ハイオ大学学長 三輪正直 氏  
魚作楼(TEL〇七四九七三三〇三二)  
会費 五、〇〇〇円

※参加いただける方は、七月下旬までに姉水会事務局へご連絡下さい。総会あるいは講演会のみ参加でも結構です。

姉水会事務局 TEL〇七四九七三三〇五五  
FAX〇七四九七三二二九六七

しかし、これらの現象は究めて大胆な発想ですが、新しい価値観を求める時代への過渡期に起きる現象ではないでしょうか。そして、本場に幸せな時代を構築していくために、次代を担う人材の育成は喫緊の課題であると考えられます。

母校、虎姫高校は現在、SSH(スーパーサイエンスハイスクール 研究開発課題…国際的な視野に立った将来の科学者・技術者及び科学技術の発展を支えコントロールする市民を育成する為の教育プログラムの研究開発 文部科学省の指定)を本年度より受けられ、高校全体で取り組んでおられます。その取り組みの中で90周年事業で各教室に導入された電子黒板がおおいに役立っているように聞こえています。

# ご挨拶

校長 西嶋博純



姉水会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は母校に對しまして多大のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

この春卒業しました64回生は国立大学後期試験まで粘り強さを発揮し、大いに健闘してくれました。本校に期待されることは湖北の進学校として将来各方面で活躍する優秀な人材を育成することであり、そのためには生徒たちに第一志望の大学等に合格できる学力をつけ、H R や部活動、学校行事を通して豊かな人間性と体力を育んでいくことが重要だと考えております。

学力とは「学ぶ力」だと言われます。単に知識を受け入れるのではなく、「なぜ」という疑問を持ち主体的に学ぶことで理解が深まります。生徒により深く、より面白い学びの機会を増やし、さらに魅力ある高校にしたいとの思いで、「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」の申請をすることに決めました。

これまでの「高大連携事業」などの実績を生かした虎高らしいSSHの内容を昨年度1年かけて全教職員で研究し、申請した結果、文部科学省より今年度から5年間、SSHに指定されました。虎高SSHのコンセプトは「Science for all」です。理系、文系問わず全ての生徒が「科学技術リテラシー」を身に付け、将来、科学技術はもとよりあらゆる分野で活躍してくれることを期待しています。

一方、学力と並んで重要なのが強くたくましい心身の育成であります。社会が豊かで物質的に恵まれているためか、忍耐力に欠け、失敗を恐れてチャレンジしない若者が多いと言われます。本校では互いに励まし合いながら忍耐強く困難を乗り越えていくことの大切さを教えたいと1年生に様々な体験学習を行ってきました。昭和48年から富士山登山、白山登山、夜間踏破、平成16年からは伊吹山登山を実施し、現在若狭青少年自然の家で宿泊体験を行っています。この学年行事は生徒にとって「質実剛健」を肌で感じ、母校愛を育てる機会でもあり、虎高の良き伝統となっています。

「不易流行」ということばがあります。質実剛健の校風を始めとする良き伝統と90周年記念事業で導入いただいた「電子黒板」の活用やSSHの新たな取り組みをうまく併せつつ、本校教育に教職員一丸となつてあたつてまいります。

皆様には今後とも、母校に對しまして、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」

### 滋賀県立大学の今とこれから

滋賀県立大学副理事長・事務局長 川口逸司 (高20回)

#### 私の仕事のこれまで

滋賀県立大学の話の前に、38年間務めた滋賀県庁での仕事のなかで感じたこと、つまり仕事を進める上で人と人とのご縁、絆がいかに大切であったか、いかに周りの皆さんに助けてもらいながら仕事をしてきたかということをお話しします。

私の県庁生活の前半は、主に税金に関わる仕事でした。税金というのははっきり理論を習得してわかりやすく説明する能力が必要で、仕事を通じて県内各市町の多くの職員の方々と知り合えたことは後々に役に立ちました。

その後、滋賀県立大学とびわ湖ホルの開設準備に携わりましたが、この二つの大事業は、研究者や芸術家などの思いや衝突を調整する必要がある、オープンな期限が決まっているため徹夜に近い状態が続くなど大変な仕事でした。

県立大学の日高敏隆初代学長、びわ湖ホルの初代赤松館長や若杉弘芸術監督らと接する中で感じたのは、学問や芸術それぞれの分野で超一流の方々は、人の話を聞く耳を持っていることでした。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」です。

#### ミニ政権交代

その後従事した行財政改革では、総合商

社派遣の「行革ディレクター」に助けってもらいながら、県のトップリーダーである当時の知事に決断を迫ることも再三でしたが、平成18年夏の知事選挙で「ミニ政権交代」が起こり、私は争点だった新幹線新駅問題担当になりました。

地元からすれば、知事が替わったからと言って、永年準備してきた新幹線の新駅を凍結する役回りの県庁の役人が信用できないのは当然でしょう。公の仕事とは何か、行政や政策の継続性とは、そもそも選挙や民主主義とはなど、根本から考えざるを得ませんでした。

いづれにせよ、このような大規模公共事業が合意の上で撤退できたのは奇跡的だと思います。知事のぶれない姿勢もありましたが、何より地元の皆さん方が結束していたからで、何回も長時間話し込んだ当時の地元の役員さんらとは、今でも「お酒を飲む関係」にあります。

#### 滋賀県立大学のこれまで

滋賀県立大学は平成7年4月、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」のキャッチフレーズのもと、環境科学部、工学部、人間文化学部という当時の先進的な3学部で開学し、17年目になります。学年進行に応じて大学院修士、博士課程を開設し、同15



年には新たに人間看護学部も増設して、18年からは「公立大学法人」として独立し、20年に工学部に「電子システム工学科」を新設しました。

公立大学法人に衣替えて6年になりましたが、それは、設立した滋賀県から独立して自律的な運営、つまり人的資源、研究資金、管理運営等を大学の自主決定のもとで行うと同時に自ら責任を持ち、外部から評価を受ける、そうした循環を目指しています。滋賀県が定めた6年間の「中期目標」に基づいて、大学が自ら「中期計画」「年度計画」を策定して日々運営に当たっています。

学生数は本年度で大学院生を含めて2,740名、うち県内出身者が約36%を占めています。県内高校から推薦で約20%が入学し、前後期の一般入試の合格者の約2割が県内出身者ということになります。

### 大学の役割の変化

大学は時代の要請に応じて、その役割を変化させなければなりません。

まず「教育」の分野では、これまで大学は「後継者（研究者）の育成」を目標としていましたが、「社会のための人材育成」へ変化しています。

二つ目の柱「研究」面でも、研究者自身の好奇心に基づいた学問のための研究から、社会のための研究へと変わっています。昔

のように狭い研究テーマについて延々とノートを読むような講義ではなく、今はあらかじめ15コマ分のシラバス（授業計画）を公開し、授業に工夫をこらし、学生に勉強させるような仕組みが必要なのです。つまり、大学で何を教えたのかという教員側からの観点ではなく、卒業する学生がきちんと知識・能力を身に付けたかどうか、学生側から評価をすることが大切だと言えます。

三つ目の柱「社会貢献」でも、施設を公開し研究成果を提供したらよいのではなく、産官民と連携していくことが求められており、県立大学は「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」ことをモットーにしています。

例えば、スチューデントファーム「近江楽座」と銘打って、地域の課題に大学も学生も取り組み、地域の活性化に向けて地域の人々と共に活動することで、学内では学べないことを体験し習得する仕組みを作っています。昨年度、「近江楽座」の25プロジェクトに約500人の学生が参加し、長浜市内でも、古民家などの伝統的建造物の再評価と活用を行い、「湖北戦国プロジェクト」を立ち上げています。

また、大学院生や社会人を対象に「近江環地域再生学座」を開設し、修了した方には地域診断・地域再生のオーガナイザーとして、「コミュニケーション・アーキテクト」の称号が与えられます。

日高敏隆初代学長は、よく「個別・具体から一般・普遍へ」と言いました。つまり、県立大学は、滋賀県とびわ湖を研究や教育活動のフィールドとして個別の地域課題に取り組むことによって普遍的な仕組みや論理を探り、その成果を国際的に活用することで社会に貢献することを目指しているのです。

正に「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」です。

### 県立大学のこれから

昨年5月に、2020年を見据えた県立大学の将来構想「USP2020ビジョン（知と実践力をそなえた人が育つ大学をめざして）」を策定しました。時代の変化をとらえ、学生の満足度が高い大学、地域や産業界と連携し創造的な研究に取り組む大学を目指そうとするものです。そのため、これまでの教育・研究・社会貢献の三本柱に加えて、グローバル化が進む社会で求められる人材を育てるため、「国際化」を四本目の柱に加えました。その具体化のため、来年の4月から「国際コミュニケーション学科」を創設します。

日本の進学率は約50%ですが、OECD諸国の中では下位に属しますし、人口1,000人当たりの大学院学生数は2人と少なく、むしろ低学歴社会だと言えます。アジアからアメリカへの留学生数は、中国、韓国、インドがここ10年で大きく伸びているのに対し、日本は減少しつつあります。

アンケート調査によりみると、大学が重要と考えている「学士力」は、問題解決力やリーダーシップ、創造的思考力などですが、企業が求める能力は、コミュニケーションスキルや自己管理能力、リーダーシップ等であり、両者にはズレが見られます。語学力の比較では、日本は香港、韓国、台湾、中国より下位で、最低ランクになります。

### 国際コミュニケーション学科

新学科では、グローバル化する現代社会に適切に対応する「知と実践力」を養うカリキュラムを通じて異文化や国際社会を理解・体験し、外国語によるコミュニケーション能力を向上させます。



入学後6か月は英語漬け。留学に向けて語学を集中的に学ぶカリキュラムになっています。卒業時には全員がTOEIC試験で730点以上取れることを目標に、少数での演習などを通してしっかりとサポートする予定です。

2年次後期になったら原則として半年間から1年間海外留学しますが、4年間で卒業できるシステムにしています。

### おわりに

今は大学も変革が必要です。滋賀県立大学は、今後とも自ら変れる大学を目指して運営していかねばなりません。最初に申しあげましたように、周りの方々の力を活かして活かされながら改革を進めていきたいと思っています。

## 傘寿を越え20回目で打ち止め

平成23年10月15日、(旧制度で5年制の)虎中第24回卒で、虎高第1回卒の最終同級会を北ビワコホテル・グラツィエで開催した。最終というのは、傘寿を超えたので一応の区切りをつけたものである。現役時代には5年目ごとに、定年を迎える頃からは毎年開催してきた。昭和48年に第1回を開いてよりちょうど20回目となった。昭和18年に入学したのは165名(55名ずつの3クラス)で、通知を出した90名中、30名が参加してくれた。

いつ会っても、お互いにすぐに生徒の昔に帰ってしまう。現役時代には酒代が嵩み、幹事役は苦勞したものである。近年は酒代の心配は全くなくなっている。体力の衰えは紛うことないが、口の達者なのは変わらない。有志に一人一分スピーチを促したら、結局全員がマイクを握り、よく喋る。

この10年ばかり、毎年12頁程度の消息集を作成してきたが、表紙を飾るのは、造形芸術家の須川常美君、能面作家の河瀬賀計君、陶芸作家の三家善雄君、画家の吉川伊代治君などの、いずれも見事な芸術作品である。今回はさらに、中原清雄君が、全20回の同級会記録写真や、20回とは別に行った地方別の懇親会などの写真集『軌跡』を作ってくれた。13歳入学当初のクラス名簿、修学旅行、卒業記念写真、過去の寄せ書きまで調えたもので、

我々の頃の卒業アルバムよりもずっと充実したものである。すごいのはその写真に日付は言うまでもなく、すべての写真に並び順に名前が入っているのである。これがなければ、

64年も前の卒業時の学年集合写真を見ても自分を探すがやっとなのである。雨森正高君が短歌の作品集『たはれ草』なる一冊を配布してくれた。さらに加えて、前回、今回と、雨森君

が参加者  
一人一人  
の四つ切  
版の肖像  
写真を作  
成してく  
れた。三  
家君も全  
員に陶芸  
作品を配  
布してく  
れた。

戦中、  
戦後のど  
さくさの  
時代を、  
十分に勉  
強も出来  
ない青春  
時代を生  
きてきたわけであるが、日本経済の高度成長期にあつて、努力し易い時代だったのだろうか、それぞれの道で、みんな良くやってきたと思う。努力が実る良き時代であつた。そんなことを確かめあつて会を続けることが出来た。

常任幹事役をやらせてもらった一人として、よくやってこられた、素晴らしい学年であつたと思う。これは、一つには事務局長として中原清雄君が手抜きをせずにお世話を勤めてくれたこと、同級生諸氏が会費を拠出してくれたこと、雨森正高君から特別の寄付金をいただいたこと、それと共に、姉水会の記念行事に対する募金活動にも示された母校愛によるものであつたと感謝している。ご同輩の皆さん、ありがとうございます。

全員に通知を出す会合は20回目をもって打ち止めとする。でも、まだ長浜中心の会は続くことだろう。

(富永八郎 記)



虎中24回虎高1回同級会 平成23年10月15日 於:北ビワコホテルグラツィエ

## 虎高第三回卒同窓会に

## 校歌の作詞者「巖谷小波」を想う

平成二十三年十月七日、虎高第三回卒同窓会を、長浜口イヤルホテルで開催、三十七名一年振りの再会を喜び合った。齢八十、校歌の作詞者 巖谷小波について、要点を書き留めて置きたいと思う。小波は、日本児童文学の創始者で、子供の発見、子供向読物の開拓、お伽噺の創作、子供雑誌の創刊、子供文化の王道を歩み、明治を代表する大家である。

小波の父巖谷一六は、明治の書道界を代表する書家の一人で、彼は天保二年、水口藩医巖谷玄通と母利子の間に生まれる。名は辨治、立的、迂也に改名更に修に改めている。五歳で父を失い、母の京都の実家で養育され、家業の医学や漢学、書や南画、特に書は幼少期寺子屋で、安見宋短に、後に中澤雪城に入門、その後家業の医学を極め乍ら、版下書や詩文集の原稿の清書で腕を磨き、十六歳で水口藩より六十石を給される。二十歳で水口に戻り侍医となる。慶応四年、三十四歳有能な書記官として、藩より推挙され、明治新政府に出仕官僚の道を歩む。明治天皇の御前で再々書を揮毫、栄進を続け元老院議員、五十六歳、官僚最高の栄誉、錦鶏閣祇候に列せられ、以降、同じ官僚の道を歩いた親友で、元彦根藩士、書道界の第一人者日下部鳴鶴と共に揮毫旅行に専念、全国行脚を行い、滋賀には二人の作品が多く残されている。翌年には貴族院議員に勅選される。一六の雅号は官庁の休日が一六の日で、休日に書に励む姿を表現した。一六は明治三十八年、七十一歳で没したが、多年の功績に従三位に叙し勲二等が授けられている。水口の古城山の中腹大岡寺に水口の人達により、顕彰碑が、篆額は清国の揚守敬、撰文は三島中洲、書は日下部鳴鶴である。

巖谷小波は、明治三年七月、東京麹町駒井町に偉大な父親、一六の三男として生まれる。本名は季雄、生後間もなく母親と死別、五歳迄里子に出される。八歳からドイツ語学校に学ぶ。十一歳ドイツ留学中の兄から、オットーのメルヘン集を贈られる。

素敵な挿し絵の入った、皮表紙の本で夢中になる。小波は後に、メルヘン集は自分を、お伽作家にした運命の本と書いてい

る。小波は医者嫌い、大学予備門

の入試に白紙解答を出し、尾崎紅葉らと交わり硯友社に入り創作活動を始め、お伽噺や小説を発表している。隠れて書いた作品を兄に破り捨てられる事件も起こる。滋賀出身の著名な学者で、一六とも親しい杉浦重剛が主宰する家塾、江洲郷友に父の勧めで加わり、小波を心配する重剛が父と兄を説得、二十歳晴れて文学で身を立てることを許される。二十二歳こがね丸を発表、序文は森陽外。二十三歳京都日出新聞の主筆となり京都に赴任。二十五歳帰京して博文館入社、少年世界の主筆となる。二十七歳木曜会結成、永井荷風会員となる。この年失恋事件を起こす、紅葉これを題材に金色夜叉を創作、問貫一は小波がモデルと噂される。二十九歳水口の富森家に嫁いだ姉幽香の紹介で水口の山村男子と結婚、子供は四男三女をもうける。三十一歳ベルリン大学東洋語学校の講師となり二年間渡欧する。三十四歳早稲田大学文学部講師となる。三十七歳文部省図書課嘱託となり、教科書編纂に関与、四十一歳水口小学校校歌を作詞、四十八歳博文館編集部を退職し、口演旅行に主力を注ぐ。五十五歳県立虎姫中学校校歌作詞。五十七歳アンデルセンの祖国デンマーク国王より勲章を授与される。五十九歳野洲三上の悠紀祭田



滋賀県立虎姫高等学校 第3回卒業生同窓会 平成23年10月7日 於:長浜口イヤルホテル



# 日東第

の御田植歌作詞。六十四歳山陽路を口演旅行中、広島で倒れ、帰京後九月五日永眠、多摩墓地に葬られる。小波は生涯に、子供を対象にした、少女小説、児童劇、歌劇、シナリオ、童謡など、児童文学すべてのジャンルに及んでいる。他に小波は、膨大な数の俳画を残している。桃太郎、蝸牛、刀、雛人形、獅子頭、達磨、鳥居、にわとり、富士、等を好んで書いた。

母校と小波を結ぶ絆、それは杉浦重剛である。滋賀県議会第十六代議長、横田隆治氏は交友深い重剛に校歌の事を相談、重剛は滋賀県人の巖谷小波を推薦。大正十三年十月二十七日虎姫に尋ね、校庭から霊峰伊吹を仰ぎ、中野山から雄大の琵琶湖を眺め構想を練り、大正十四年五月十日、大正天皇結婚の式典を祝し、正式に校歌の作詞を依頼、同二十日、校歌は校長先生の元に届き、早速、大阪の永井幸次氏に作曲を依頼、格調高い立派な校歌は誕生したのである。開校当時の先人先輩のご苦労と、校歌の作詞者巖谷小波先生、作曲者永井幸次先生に感謝の誠を捧げたい。(長谷川隆男)

## 二十二年生同窓会報告

「五年後の五月五日に再会しよう。」と前回、平成十九年夏の同窓会で約束をした今回の同窓会では、全員が還暦を迎え、この三月末に退職をした者も多かった。

約束の五月五日は天候にも恵まれ、会場となった北ビワコホテルには、当初の予想を超える八十名の懐かしい仲間が集まりました。

恩師の松島正隆先生と、片桐憲夫先生にも御出席していただき、開会の冒頭で、物故者となられた恩師と同級生への黙祷を行ったあと、二十二年生同窓会長の藤森了堅君の挨拶で始まりました。

各クラス毎のテーブル席の形で始まったものの、徐々に仲間や同じ部活動の者の輪も加わり、話題は尽きず、終了時刻の延長となりました。

最後は日東第一の合唱。一番二番三番と、声高らかに歌いました。

今年は丁度オリンピックの年なので藤森会長の発案で「これからはオリンピック開催の年に四年毎に出逢おう」と約束し、ほとんど全員が二次会へと流れました。

(文 幹事 松井善和)



## 二十三年生同窓会報告

平成24年1月2日に『還暦同窓会』として卒業以来4回目の同窓会を開催しました。私たちの同級生は、辰年と巳年になり、正確には来年の人たちもいますが、大半の同級生が還暦を迎えます。人生60年、卒業して38年になるわけです。職場も今年で定年を迎える人も多く、年金の話があつちでもこつちでも・・・今までは5年おきに同級会を開催していましたが、次回からは3年おきにしようということで皆さんの同意をいただきました。

私たち同級生は、251名ですが、物故者が18名もいます。他と比較するとかなり多いようです。今回の参加者は55名でしたが、回を重ねるうちに親しさもより増してきてアツという間に時間が過ぎてしまいました。先生方は西岡月枝先生を始め

め瀬辺勸先生、北川貢造先生、富永八郎先生、数内徹先生にご出席をいただき残念ながら笹原正隆先生、野口元一先生には、体調不良とのことでご出席いただけませんでした。西岡月枝先生はご高齢にもかかわらず、「皆さんが還暦だということでご出席させていただきます」とご挨拶されていました。私たちもこの歳になると恩師か同級生か、わからないのですが、同級会に出席できる幸せ、喜びを皆で共有させていただきました。初めて参加してくれた人もいましたが、やはりどこことなく趣があり遠い学生時代にタイムスリップしたようでした。



く同窓生が集い、杯を酌み交わしながら、近況に、また昔話に花を咲かせています。当時お世話になった先生方にもご出席いただいています。



今年は1月2日に開催しました。今回は今までになかった企画として『母校見学ツアー』を入れました。虎姫高校のご好意で校地、校舎をまわらせていただきました。30年前と変わらない景色を懐かしみ、新しくなっているところをみつめて時の流れを感じ、ノスタルジックな時を過ごしました。

第2部の宴から参加したのも多く、会場のگرانパレー京岩では予想以上に盛り上がりました。ここ数年は出欠の返信の際に書いてもらった近況をまとめて出席者に配布しているのですが、今回はPCメールで欠席連絡があつた人にも皆さんの近況や当日の写真を見ていただけるようになりました。またフェイスブックで連絡をとりあつたりもしました。これも時代の流れなのかと思えます。

私たちは皆50歳になりました。まだまだ『天命を知る』ことはできませんが、これからの人生を楽しみ、有意義なものにしていくためにもこのつながりを大切にしていきたいと思います。

(文責 山崎正直)

## 三十二回生同窓会報告

私たちが虎姫高校第32回卒業生は、4年に1度オリンピックイヤーに同窓会を開いています。いつ頃から始まったのか確かな記録はなく、記憶も曖昧なのですが6回以上は続いております。それは正月であったり、お盆であったり、各地で生活している学友が帰省しやすい時期に開かれ、毎回多

(文責 北田康隆)

文部科学省より

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の

指定を受けました。

(平成24～28年度5年間)

## ■ 本校のSSHとは

本校のSSH事業における研究開発課題は、『国際的な視野に立った将来の科学者・技術者及び科学技術の発展を支えるコントロールする市民を育成するための教育プログラムの研究開発』です。

全生徒（文系・理系に關係なく）の科学的ならびに論理的な思考力を涵養すること、理系生徒には「國際的な視野に立つ科学者・技術者」としての資質を、文系生徒には「科学技術の發展を支えコントロールする市民」としての資質を育成します。

この事業は「高等学校における理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策についての研究を推進し、将来有為な科学技術系人材の育成」を目的としており、イノベーションの創造を推進する独立行政法人科学技術振興機構(略称JST)を通じて、総額約5,600万円(5年間の概算)の支援を受け、実施する事業です。

## SSH指定を受けるにあたり

SSH支援事業の指定を受けるにあたり、「虎姫高校で生徒に提供したい確かな力は何か」を、全職員で議論しました。そこで本校生徒に身につけさせたい確かな力とは、次に示す「3つの力」と「2つの態度」であると定義しました。この力は、人間の生きる力・実践力・一般的学力などを伸ばす基礎になるもので、SSH事業で育成したい科学的素養の土台にもなるものです。

探究力……探究力とは、知を活用しながら、知を創出する力のこと。疑問を見つけ、課題を設定、解決方法を考案して、試行錯誤しながら行動して乗り越える力。

表現力……コミュニケーションの基本となる力で、自分の意思や情報を的確に発信する力のこと。表現することは自分自身の学びを深めることでもある。

協働力……仲間と情報を共有し、議論し、役割を分担しながら、物事を作り上げる力のこと。自己や他者との対話は、生徒の意欲を喚起して、自律的に活動する態度が養われる。

主体的な態度……自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする態度のこと。「学ぶのは自分自身である」という自覚の上に成り立ち、「学びたい」という知的欲求に転換される態度。

科学的な態度……客観的にとらえ、論理的に分析・説明・予測していくこうとする態度のこと。感性や直観の瑞々しさを尊重しながらも、科学的に思考し判断できる態度。

■SSH事業と「3つの力」と「2つの態度」の育成を通して次のような役割が果たせると考えています。

### ①高校の枠を越えた授業・学習内容への挑戦

②地道な努力（凝縮）と能力の開花（拡散）する時期を繰り返しながら、人は成長しますが、この凝縮と拡散の過程が部活動や学校行事だけでなく、学習活動でも明確に実感できる機会にすること。

③資源のない日本が求める国際競争力のある人材育成を、国際競争力の中でも重要な柱とされる科学技術の振興を通して貢献する。

## ■事業内容

多くの事業を実施します。その内容は次のようなものです。（抜粋）

1. 『究理Ⅱ』（2年生）& 『究理Ⅰ』（1年生）

『究理』では、調べたい研究課題を決め、実験やデータの整理と考察、論文の作成、英語によるプレゼンなどを行います。

『究理Ⅰ』では、『究理Ⅱ』の基礎となる力を付けるために、サイエンスワールドワークやミニ課題研究などを行います。

## 2. 高大連携

昨年までの高大連携講座は「サマーセミナー」(阪大・滋賀医科大学・県立大)として、新たに「ウィンターセミナー」(長浜バイオ大)も加え、発展的に行います。文系の金沢大学との連携講座は県教育委員会の「確かに自己実現支援事業」として、同じ時期に行います。

3. 科学系クラブによるサイエンスショー&地域への発信  
小中学生を対象に、サイエンスショーを行ったり、体験入学でも科学について触れられる機会を増やしていきます。また、地元に生息する絶滅危惧種の飼育研究を通じて、地域との連携も深めます。

#### 4. 電子黒板を活用したプログラムの研究開発

フィンランドの高校生との交流を行ったりしています。SSH事業では電子黒板のさらなる活用方法を研究します。例えば、大学教授からの指導助言を教室で受けたり、実験結果を瞬時に提示・活用するといったことが考えられます。また、タブレットPCなどの利用で、生徒と教員の双方から授業参加できる可能性も広がります。生徒のプレゼンテーションもハード面からサポートできます。



長浜姉水会第33回総会 平成23年11月12日 於 魚作楼

## 滋賀県立虎姫高校創立90周年記念事業収支 最終報告

☆昨年の会報で記念事業の中間決算報告を致しましたが、その後の収支について報告させていただきます。

【収 入】				
項 目		内 容	金 額	
収 入		(中間報告時の額)	27,483,361	
寄 付 金			9,760	
利 息			1,355	
収 入 合 計			27,494,476	
【支 出】				
項 目		内 容	数 量	金 額
支 出		(中間報告時の額)		22,220,310
電子黒板 関係		電子黒板 (ActivBoard)	4	3,990,000
		ノートパソコン・書画カメラ	4	606,816
		パソコン収納箱	4	105,000
		短焦点プロジェクター	1	262,500
		遮光カーテン	4	157,300
		周辺装置・備品等		152,550
		小 計		5,274,166
支 出 合 計			27,494,476	
【残 高】		収入総額	27,494,476	
		支出総額	27,494,476	
		差引残高		

平成24年度 姉水会役員（敬称略）

役職	氏名	卒回
会長	木下 善正	高14
副会長	笹原那智子	高15
	関谷 松男	高20
	沢田 昌宏	高28
顧問	辻 篤太郎	中11
	長谷川隆男	高3
(東京姉水会会長)	前川 一郎	高7
(大阪姉水会会長)	根尾 昇	高28
(長浜姉水会会長)	伊藤 正明	高20
(県庁姉水会会長)	西嶋 栄治	高23
(校長)	西嶋 博純	高23
監事	本城 善男	高28
	鈴木富美代	高18
理事	瀬邊 勸	高2
	米田 喜幸	高11
(長浜姉水会事務局長)	西田 吉昭	高13
	草野 正勝	高14
	脇坂 博	高18
	大橋香代子	高18
	速水 敏行	高18
	月ヶ瀬妙子	高19
	清水 実	高20
(東京姉水会事務局長)	篠原 新衛	高21
	北田 康隆	高23
	坂井 久泰	高26
	河崎 仁美	高30
	清水 金幸	高31
	廣部宇一郎	高36
	宮島 正典	高37
	馬場 鋭州	高42
(大阪姉水会事務局長)	川田 昌史	高48



64回生 大学・短大・専門学校等合格者数一覧表

【国公立大学】

大学	総合格数
北海道大	1
筑波大	1
富山大	2 (1)
金沢大	5
福井大	3
信州大	2
岐阜大	4 (1)
静岡大	1
名古屋大	4
名古屋工大	1
三重大	2
滋賀大	14
滋賀医大	1
京都大	2 (1)
京都工芸繊維大	1
大阪大	2
大阪教育大	2
神戸大	3
和歌山大	2 (1)
鳥取大	1 (3)
岡山大	1
広島大	5
鳴門教育大	1
香川大	2
愛媛大	1
高知大	1
会津大	1
高崎経大	1
石川県立大	1
福井県立大	1
都留文科大	1
愛知県立大	2
三重県立看護大	1
滋賀県立大	7
大阪市立大	3
大阪府立大	2
兵庫県立大	1 (1)
県立広島大	(1)
高知工科大	(1)
神戸市外大	1
北九州市立大	1
福岡県立大	1
宮崎公立大	1
合計	90 (10)

【短期大学】

短期大学	総合格数
岐阜市立女子短大	1
大垣女短大	1
龍谷大短大部	1
白鳳女短大	(1)
合計	3 (1)

【専門学校】

専門学校	総合格数
大津赤十字看護専	1
京都第一赤看護専	1
京都医療療看護助	1
滋賀県立看護専	5
草津看護学校	1
京都製菓技術専	1
甲陽音楽学院	1
合計	11

【公務員】

事業所	総合格数
滋賀県職員	1
海上保安大学校	1
航空保安大学校	1
海上保安学校	1
合計	4

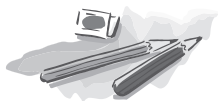
64回生(平成24年4月卒) 大学等合格者数・進学者数

	合格者数	進学者数	過年度合格者数
国立大学	65	64	7
公立大学	25	21	3
私立大学	397	88	32
公立短期大学	1		
私立短期大学	2	1	1
専門学校等	11	7	
公務員等	3	3	
その他		13	
合計	504	197	43

【私立4年制大学】

大学	総合格数
芝浦工大	2
創価大	1
中央大	1
明治大	1
早稲田大	3
東洋大	(1)
金沢大	6
松本大	1
岐阜女子大	2
岐阜聖徳学園大	23 (2)
東海学院大	2
岐阜医療科学大	1
愛知医大	1
愛知淑徳大	4
中京大	3
中部大	(1)
名古屋外大	2
名古屋女子大	1 (2)
南山大	1
藤田保健衛生大	1
名城大	2
鈴鹿医療科学大	4
平安学院大	1
長浜バイオ大	5
びわこ成蹊大	1
聖泉大	3
大谷大	2
京都外大	8
京都産業大	22 (1)
京都女子大	12 (2)
京都精華大	1
京都造形芸芸大	1
京都橘大	10 (2)
京都薬大	1
京都光華女子大	2
同志社大	34 (5)
ノートルダム大	2
佛大	21
立命館大	76 (4)
龍谷大	66 (5)
京都文教大	1
京都医療科学大	1
大阪学院大	2
大阪経大	2
大阪経済法科大	1
大阪工大	4
関西大	7 (3)
関西大	5
近畿大	16
摂南大	3
関西福祉科学大	1
藍野大	4
大阪青山大	1
関西学院大	9
甲南大	(3)
神戸女子大	4
松蔭女子学院大	1
兵庫大	1
武庫川女子大	1
神戸常盤大	2
川崎医療福祉大	1 (1)
合計	397 (43)

( )は過年度で外数



転入  
西坊 晴美(教頭) 彦根東高校より  
篠宮 寿夫(数学) 安曇川高校より  
大橋 恵佐男(国語) 石山高校より  
高田 武治(数学) 県教委より  
浅井 浩(理科) 伊吹高校より  
福永 紘子(英語) 新規採用  
宮崎 望(主任主事)  
中央子ども家庭相談センターより

転退  
村居 利美(再任用終了)  
辻 浩一(教頭) 長浜北高校へ  
三上 保彦(教頭として) 安曇川高校へ  
笹原 法子(国語) 河瀬高校へ  
久保田秀和(数学) 河瀬高校へ  
京極 秀伸(英語) 八幡高校へ  
浅見ひとみ(副主幹) 東北部流域下水道事務所へ

平成二十四年度 職員人事異動 (敬称略)



今年度永年勤続表彰

母校に永年ご勤続をいただき、後輩の教育にご尽力されている先生方の労に對し、総会において会長より感謝状と記念品が贈呈されます。

十年勤続

赤尾 宗典  
福永 晴実  
三田村伸之  
吉田 忠泰

虎高20年の教師生活の思い出

虎高18回 村居 利美

今春で再任用期間の4年を含め、教壇を降りることになりました。41年の教師生活も後半20年を母校の虎姫高校で過ごさせていただき、本当に幸せであったと思います。  
HR担任として卒業生を送り出したのは46回生のみで、そのほとんどが教務課でしたので、担任

としてより、「生物」の教科担任として覚えておいてくださった方が多いと思います。赴任したこの虎姫高校の印象はすぐアカデミックな学校だと感じたことです。先生方、生徒諸君が大層知的好奇心が高いことでした。数学のS大先生から生物に関するハーディ・ワインベルグの法則についての質問があったり、放課後多くの先生方が集まってC40のサッカーボール立体模型をつくったり大層楽しい時間を過ごしたのを思い出します。地域の方からも、ホタルの飼育とか、珍しい植物が見つかったから名前を教えてくださいとかの問い合わせもかなりあったように記憶しています。  
姉水会の思い出は80周年事業を中心に事務局として関係させていただいたことです。樋口会長、伊藤副会長のもと、「智徳館」建設という大事業を完成していただきました。多くの姉水会会員の皆様のパワーのすごさを感じさせていただきました。18回の同窓生の方々にも大変な協力をいただきました。この流れは90周年事業にも受け継がれました。  
20年の間に旧体育館が智徳館に生まれ変わり、温室が撤去され、自転車小屋の大きな柳の木や、前庭のヒマラヤシダーもほとんど無くなりました。「賢くなる水」も数年前の校舎耐震工事で、

その様を変えました。黒板の授業も電子黒板に変わり、チョークが電子ペンに変わり大きく様変わりしています。しかしながら、第2代目のプールの水源だった「強くなる水」は健在で、藤棚の下に清水を湧出し部活の生徒ののどを潤しています。また温室横のモクレンも巨木になり、毎年春には見事な花を咲かせています。いずれも虎姫高校のHPに久保田先生の見事な写真が掲載されていますので是非ご覧下さい。  
平成24年度から、新しいSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業が始まりました。虎姫高校のような小規模校でSSHの指定を受けられたことは快挙だと思います。その分これからが大変だと思います。先進的に取り組んできた高大連携事業や、中高一貫の研究で取り組んだ実績をここに、大きく発展してくれ、祈りたいと思います。



モクレンと園芸部の小屋



# 三角点

(上位成績のみ)

## ■平成二十三年度分

## 【秋季総体】

## ・水泳部

男子 一〇〇m背泳ぎ6位 鷺見正平

二〇〇m背泳ぎ5位 鷺見正平

女子 二〇〇m自由形5位 竹村茉歩

## 【滋賀県高等学校ユース陸上競技対抗選手権大会】

## ・陸上部

一〇〇m1位

西村顕志 近畿大会3位

一〇〇m1位、二〇〇m3位

鍵弥綾香 近畿大会出場

四〇〇m1位、四〇〇mH1位

押谷真鈴 近畿大会4位

国民体育大会、

日本ユース陸上競技選手権大会出場

四〇〇mリレー3位

(丸岡・押谷・小川・西村) 近畿大会出場

一六〇〇mリレー6位

(稲葉・押谷・川村・西村) 近畿大会出場

## 【秋季総体】

## ・アーチェリー部

男子団体3位

## ・卓球部

女子団体 ベスト8 近畿大会出場

・アメリカンフットボール部 3位

## ・ソフトテニス部

女子団体 ベスト8

女子個人 ベスト16 (河端・黒井組)

近畿インドア選手権大会出場

・陸上部

一〇〇m3位、二〇〇m2位 西村顕志

四〇〇mリレー3位 (小川・押谷・稲葉・西村)

## 【文化部】

## ・囲碁・将棋部

団体・2部リーグ 2位 (井上・丸山・中尾)

個人・1部リーグ 2位 村上浩崇

第20回全国高文連将棋新人大会個人戦出場



## ■平成二十四年度分

## 【文化部】

## ・囲碁・将棋部

全国高校将棋選手権大会県予選

個人戦男子 優勝 村上浩崇

準優勝 丸山喜紀

個人戦女子 優勝 村上祥代

村上浩、丸山、村上祥 全国大会出場

全国高校将棋竜王戦県大会

優勝 村上浩崇 全国大会出場

## 【春季総体】

## ・陸上部

一〇〇m6位 西村顕志 近畿大会出場

一〇〇m6位 鍵弥綾香 近畿大会出場

四〇〇m4位、四〇〇mH3位

押谷真鈴 近畿大会出場

## ・ソフトテニス部

女子団体 ベスト8 近畿大会出場

## ・水泳部

一〇〇m背泳ぎ5位、二〇〇m背泳ぎ5位

鷺見正平 両種目で近畿大会出場

二〇〇m自由形7位、八〇〇m自由形6位

竹村茉歩 両種目で近畿大会出場

両種目で近畿大会出場

## 平成23年度 姉水会決算報告(案)

[1]一般会計  
収入の部自 平成23年4月1日  
至 平成24年3月31日

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	2,001,333	(定期: 1,403,005円、普通: 598,328円)
入 会 金	591,000	高64回生 (3,000円×197人)
同窓会名簿売上	12,000	4,000円×3冊
運 営 協 力 金	2,087,820	口数1111口、手数料差引額
姉水会館宿泊代	15,000	合宿における他校生徒の宿泊500円×30人
雑 収 入	10,417	利息(定期、普通)、総会祝儀
合 計	4,717,570	

## 支出の部

項 目	金 額	備 考
通 信 費	760	郵送料、振込手数料
旅 費	88,808	東京姉水会・大阪姉水会・県庁姉水会
会 議 費	133,531	理事会・総会等 (永年勤続祝金・写真代等)
慶 弔 費	63,310	祝儀(東京姉水会・長浜姉水会)、香典等
姉水会館共済掛金	11,800	建物共済
会報「姉水」発行経費	1,528,854	「サラト」へ
姉 水 会 館	116,808	ガス・電気・水道代、鍵交換、ダニ調査など
「特別会計」へ繰入	394,000	高64回生 (2,000円×197人)
〃	400,000	運営協力金より
合 計	2,737,871	

次年度繰越金	1,979,699	(定期: 1,403,343円、普通: 576,356円)
--------	-----------	-------------------------------

## [2]特別会計

## 収入の部

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	10,710,832	(定期: 6,311,223円、普通: 4,399,609円)
一般会計より繰入	794,000	高64回生入会金、運営協力金より
寄 付 金	100,000	匿名の寄付金
雑 収 入	16,071	利息(定期: 15,394円、普通: 677円)
合 計	11,620,903	

## 支出の部

項 目	金 額	備 考
合 計	0	支出なし

次年度繰越金	11,620,903	(定期: 6,326,617円、普通: 5,294,286円)
--------	------------	---------------------------------

## 平成23年度 運営協力金について

振込金額	2,220,000円
(口数	1,111口)
手数料	132,180円
差引金額	2,087,820円

多くの会員の方からお振り込みいただき誠にありがとうございました。

H23年度運営協力金は、主に会報「姉水」発行経費に充てさせていただきました。

今年度も、皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

## 「同窓会だより」の 原稿募集について



多くの学年で、旧交を温め合うべく同窓会を開催されていることと思います。その様子を本紙の『日東第一だより』に掲載させていただきたく存じます。是非とも事務局まで原稿をお寄せ下さい。写真のみの掲載でも結構ですので、どうぞよろしくお願い致します。毎年、5月上旬が原稿メ切りになっております。